

指導者 各位

福岡県ミニバスケットボール連盟  
技術普及部・審判部**福岡県におけるマンツーマンディフェンスの推進(ゾーンディフェンス禁止)について**

日本バスケットボール連盟から、2015年度の全国大会よりゾーンディフェンスは禁止という達示がありました。九州ミニバスケットボール連盟も全九州大会よりゾーン禁止を決定しました。

そこで、福岡県ミニバスケットボール連盟は、今年度の県交歓大会(8月)、県選手権大会(11月)、において、マンツーマンディフェンスを推進(ゾーンディフェンスを禁止)するということに決めました。

ゾーンディフェンス禁止については公式には、JABからの達示はきていませんが、日本ミニ連の研修会および研修会資料をもとに福岡県ミニ連独自で作成しました。  
正式な伝達が下りた場合は、変更していきます。

**<コミッショナー>**

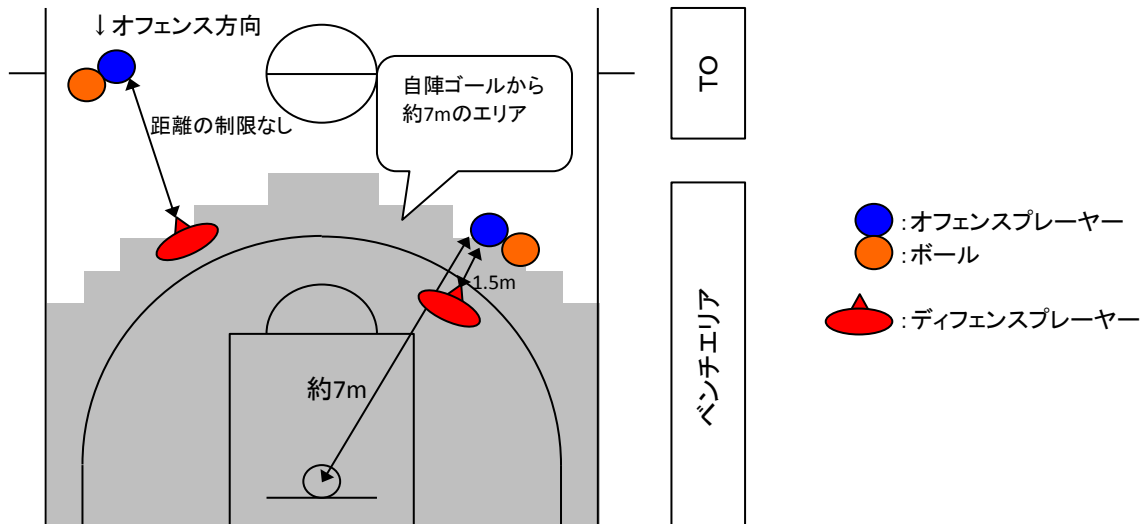
- ・コミッショナーは本連盟が任命した役員が行い、以下の基準でゾーンディフェンス禁止に関する違反を判定する。
  - ・違反に対して、ゲームクロックが止まっている時に審判と協議し、必要な場合はチームの指導者にその内容を伝達する。
  - ※コミッショナーからの指導は、基本的にはゲームの勝敗や点差に関係なく必要と判断されたときに行うものとする。
  - ・チームの指導者は、その場で速やかに自チームの選手に指導をしてください。
- なお、コミッショナーからの指導に対するクレーム、異議は認められません。スムーズなゲーム運営進行にご協力をお願いいたします。
- ※このときの指導に関してはタイムアウトではありませんので、ゾーンディフェンス以外の指導は禁止します。

**<マンツーマンのはじまり>**

- ・オールコートマンツーマンはOKとする。
- ・マンツーマンプレスはOKとする。
- ・守るゴールのハーフコート内のスリーポイントエリア付近(約7m)からは(マンツーマン)ディフェンスを始める。
- ※制限区域までとりあえず戻ってからマッチアップするような指導はしないこと。
- ※オフェンスチームは、ファストブレイク以外、バックコートに選手を残すようなオフェンスをしないこと。

**<ボールマンへのマッチアップ>**

- ・守るゴールのハーフコート内約7mのエリアでは、オンボールには1.5mまで近接してディフェンスすること。
- ※1.5m以内に近接しようとするディフェンスプレイヤーは指導の対象とする。



**<ボールマン以外へのマッチアップ>**

マンツーマンディフェンスをしているかの基準を以下のA~Dとする。  
(目のコンタクト・手のコンタクト・声のコンタクト)。

A: ディフェンスの視線

体をボールの方に向け、ボールだけを見続けることがないように指導すること。

B: ピストルやボールとマークマンの両方に手のひらを向ける行為

C: ナンバーチェックやコミュニケーション(「スイッチ」・「ローテーション」・「2番」・「3番」などの声出し)

自分のマークマンをきちんと意識すること。

マークマンが曖昧になり、結果的に漠然と場所を守ってしまうことが無いようにすること。

D: マークマンへ直接触れる行為

視線がボールを向いていてもマークマンへ直接触れることでマークマンに対する意識を失わないようにすること。

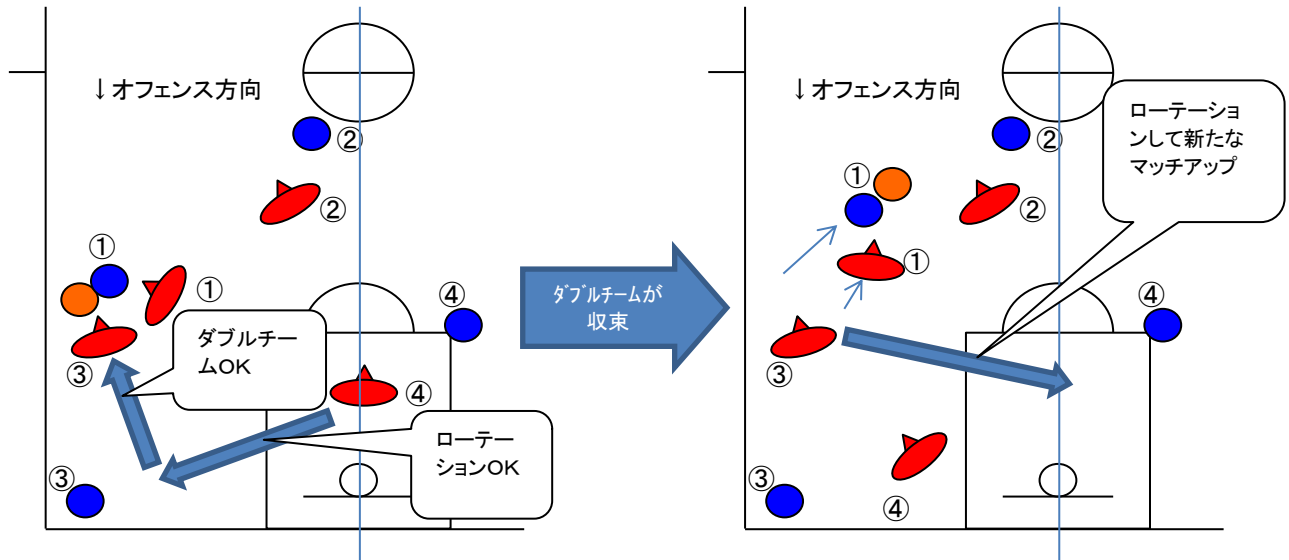
※A~Dを一つも実施しない、ボールにばかり意識を奪われA~Dを一つも持続できないプレーヤーは指導の対象とする

※ヘルプ・スイッチ・ローテーション・リカバリーをきちんとすること

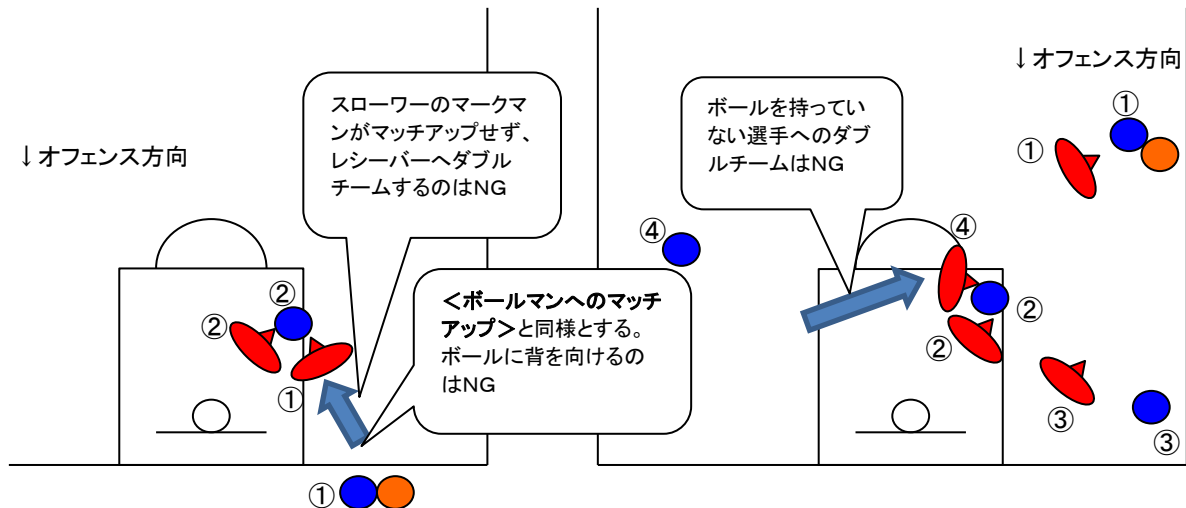
**<ダブルチーム>**

・オンボールへのダブルチーム(トラップ)はOKとするが、トラップが収束したら直ちにマッチアップを始めていること。

※トリプルチームはNGとする

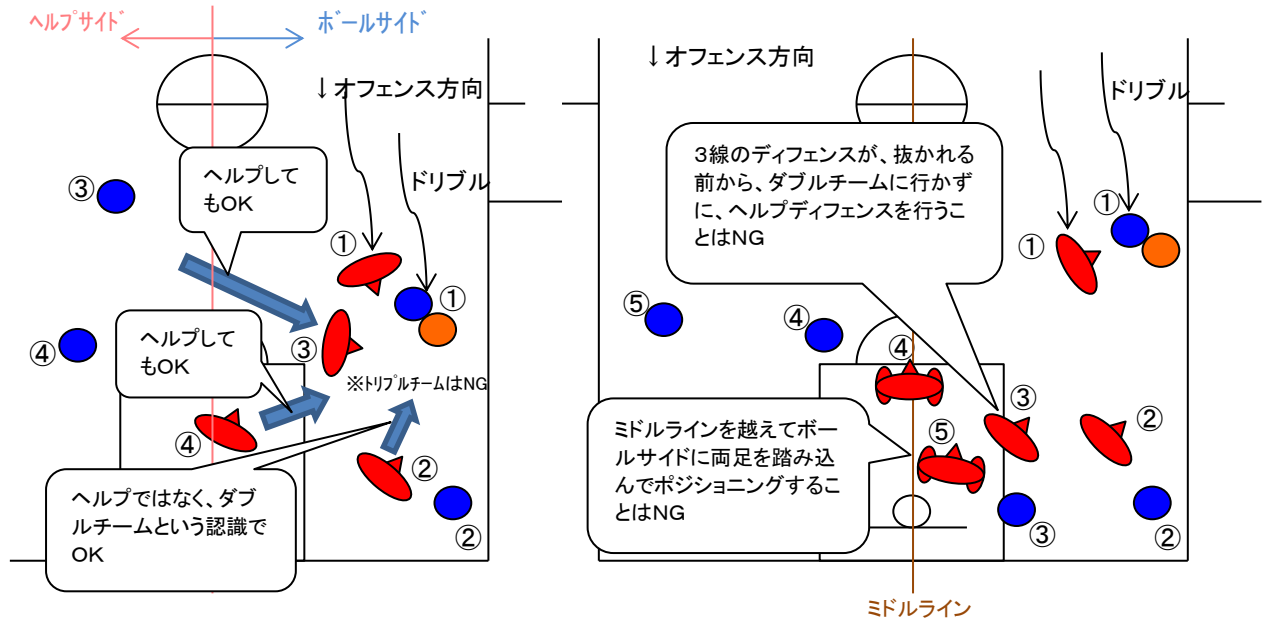


・ボールを持っていない選手へのダブルチームはNGとし、スローインのときもこれを適用する。



### <ヘルプディフェンス>

- ・ディフェンスが抜かれた場合、ヘルプサイドからのヘルプはOKとする。
- ・3線目のディフェンスは、抜かれていないのにヘルプすることはNGとする。
- ※2線目のディフェンスが、ボールマンが抜かれる前にヘルプを見せることは問題ないが、その後は直ちに<ボールマン以外へのマッチアップ>を意識しなければならない。
- ・3線目のヘルプディフェンスの準備は、ミドルラインを越えてボール側に両足を踏み込んで位置取りすることはNGとする。



### <スイッチ・ローテーションディフェンス>

- ・スイッチ、ローテーションディフェンスはOKとする。
- ・スイッチ後のオフボールにマッチアップしている選手が、P2の<ボールマン以外へのマッチアップ>にあるA~Dの一つもしていない場合は、指導の対象とする。
- ※オフボールのディフェンスどうしのスイッチ、ローテーションはNGとするが、パスが投げられようとしているときはこの限りではない。
- ・ローテーションについても同様とする。
- ※スイッチ、ローテーションを行った後も、新しいマークマンへの意識を持ち、マンツーマンディフェンスを維持すること。

### <罰則について>

- ・ゾーンディフェンス禁止の違反に対する罰則は設けない。
- ※但し、コミッショナーからの指導を無視する行為、異議を唱えてゲームの進行を遅らせる行為は通常のベンチテクニカルの対象とする。

### <その他>

上記の項目に違反したからといって、即座にゾーンディフェンスと判断されるわけではない。選手の学年、技術によるところも配慮し、マッチアップの意識が感じられるかどうかを判断基準とする。

急なお知らせで申し訳ございませんが、ご理解いただき、子どもたちへの指導をお願いいたします。この文章だけではゾーンディフェンス禁止についての全てを表現できない場合があるかと思えます。その場合、各ゲームでのコミッショナー、大会役員の判断を尊重頂きますよう、併せてお願いいたします。すべては、「バスケは楽しい」、「1対1はおもしろい」を原点としています。

- ※ ゾーンディフェンス禁止については、相手チームへのクレームは禁止とします。クォーターの間やハーフタイムにコミッショナーに相談をおねがいします。
- ※ ゾーン禁止については、今年度は過渡期にあります。新しい資料等が来ましたら随時変更していきます。